

2019年10月1日

各位

神奈川県川崎市高津区坂戸 3-2-1
オンコセラピー・サイエンス株式会社
代表取締役社長 藤谷 京子
(コード番号 4564 東証マザーズ)
(問い合わせ先) 管理本部長 子玉 弘二
電話番号 044-820-8251

食道がん患者を対象としたがん特異的ペプチドワクチン S-588410 に関する
探索的研究成果発表のお知らせ (2019年欧州臨床腫瘍学会年次総会)

2019年9月30日(現地時間)、欧州臨床腫瘍学会年次総会(ESMO2019、開催地:スペインバルセロナ)にて、当社が塩野義製薬株式会社(本社:大阪市中央区、代表取締役社長:手代木 功)にライセンスアウトしているがん特異的ペプチドワクチン S-588410 に関する探索的研究成果のポスター発表(タイトル: Induction of tumor-infiltrating functional CD8 positive cells and PD-L1 expression in esophageal cancer by S-588410)が行われましたので、その概要をお知らせいたします。

S-588410 は、食道がんにおいて発現の亢進が認められるがん精巢抗原(DEPDC1, MPHOSPH1, URLC10, CDCA1 および KOC1) に由来する5種類の HLA-A*24:02 拘束性ペプチドからなるがん特異的ペプチドワクチンです。現在、日本において食道がん患者を対象とした第III相試験が進められており、昨年3月には患者登録が終了しております。

さらに、塩野義製薬株式会社は術前の S-588410 の短期投与が腫瘍浸潤 CD8 陽性 T リンパ球の数や腫瘍組織における PD-L1 の発現に与える影響を評価する目的で、食道がん患者15名を対象とした第I相試験を実施いたしました。この度、ESMO2019において当該第I相試験の結果が発表されました。試験結果の一部(TCR レパトア解析)は、当社と塩野義製薬株式会社との共同研究によるものです。

【概要】

試験に登録された15名の方すべてにおいて、S-588410 投与後にペプチド特異的な細胞傷害性 CD8 陽性 T リンパ球(CTL)の誘導が認められました。S-588410 投与後の血中におけるペプチド特異的な反応(サイトカイン産生)を示す CD8 陽性 T リンパ球の存在率は、投与前と同等あるいはそれ以上でした。

また、腫瘍組織における CD8 陽性細胞、グランザイム B 産生 CD8 陽性細胞、PD-1 発現 CD8 陽性細胞および PD-L1 発現細胞の密度は、S-588410 投与後に増加しました。

さらに S-588410 投与後の血液および腫瘍組織に存在する T リンパ球の T 細胞受容体 (TCR) を調べた結果、投与ペプチドを認識する TCR が検出されました。

以上の結果は、S-588410 投与によって食道がんにおける CD8 細胞や PD-L1 発現細胞の増加が誘導されたことを示唆します。腫瘍浸潤 T リンパ球の数や腫瘍組織における PD-L1 の発現は、がん治療に用いられる免疫チェックポイント阻害薬 (抗 PD-1 / PD-L1 抗体) の作用機序に関係する重要な因子と考えられています。今回の報告は、S-588410 と抗 PD-1 / PD-L1 抗体の併用による相乗効果の可能性を示すものです。

以上